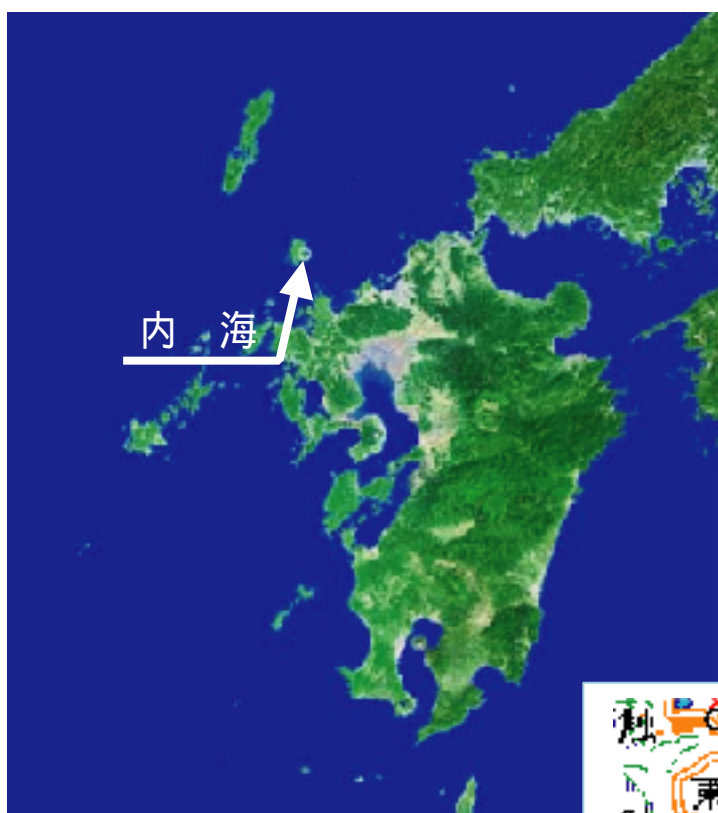


## 海域の概要

本湾は、壱岐島の東部に位置する湾で、東部を日本海に開き、芦辺町と石田町に囲まれています。湾中央部には赤島と青島の2つの島があります。湾内では真珠やアコヤガイの養殖が盛んに行われています。



## Specification

### 諸元

湾口幅：1 8 2 k m

面積：5.9 1 k m<sup>2</sup>

湾内最大水深：2 0 m

湾口最大水深：2 0 m

閉鎖度指標：1 3 4

備考：環境基準類型指定水域

## Location

### 範囲または位置

長崎県壱岐郡石田町権現鼻と同郡芦辺町長者原崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



## 環境

壱岐の東岸に位置し湾口を玄界灘に開いている湾で、島の周囲を対馬暖流が北東に向かって流れています。気候は太平洋岸気候区に属し比較的温暖ですが、冬季は大陸からの北西季節風のため海がよく荒れます。

大きな流入河川はなく、湾内に幡鉾川など小河川が流入するのみで、大きな集落もないことから、全般に水質は良好です。昭和60年頃におけるCODの濃度は、湾内全域で1mg/l前後となっていて、全般に良好な環境にあります。

底質は、湾中央部の2島を境に湾口部北側が岩質、南側が砂質、湾奥部が泥質となっています。

## 自然

壱岐島の西に開いている湾で、湾中央部には青島と赤島があり、壱岐津島国定公園に指定されています。水深は湾口部を除いて一般に浅く、最も深いところで10m程度になっています。

湾口部の岸付近にはガラモ場が形成され、湾奥部には広大なアマモ場が形成されています。

湾口の八幡浦には、化石の出る屏風岩（左京鼻）があります。

一時、内海湾淡水湖計画に基づき、青島の北側が締切堤により区分されましたが、現在は青島との連絡路として使われています。



八幡浦の左京鼻

## 文化歴史

芦辺町は壱岐の北東部を占め、大きく突き出した八幡半島にあるはらほげ地蔵や、男岳神社の石猿群など名所が多いところです。はらほげ地蔵は、満潮時には首まで潮につかる6体の地蔵で、その由来はさだかではありませんが、海女など海難者の霊を弔った、疫病がはやりそのために祭られた、クジラの霊を弔ったなどいくつかの説があります。

また、湾背後の丘陵にある「原の辻遺跡」は、大規模環濠集落で「魏志倭人伝」に記載された「一支国」の中心と考えられています。



はらほげ地蔵

## 産業

内海湾では真珠の養殖やウニ・アワビ漁などが盛んで、特に4～10月の左京鼻付近では、昔ながらの海女漁を見ることが出来ます。

湾内の漁業は、小型定置網漁業のほか、地先岩礁帯を中心としたアワビ、ウニ類などの採貝採藻漁業が行われています。また、各種養殖漁場として利用され、現在モワカメ、アオサなどの海藻類を始め、真珠やアコヤ貝の養殖が盛んに行われています。



壱岐焼酎

芦辺町の特産品には、水産加工品のほか、壱岐焼酎があります。壱岐焼酎は麦焼酎発祥の地として400年の歴史を有すると言われています。

壱岐空港も近く、観光・レクリエーションも盛んで、湾内の青島は都市公園として天然林を残し、各種スポーツ施設が配置整備され、レクリエーション施設として使われています。